

『風神録の風祝』

レイムたちが訪れたのは、まず風神録の異変世界だった。巫女衣装になったレイムは、目的もなく光琳堂を飛び出す。それを慌てて追つアキユウだったが、光琳堂を出た瞬間、全く違う周囲の情景に混乱。「エロいですが……っ」「と叫んだ。

レイムは市街に出ると、いきなり彼女は誰とにとりの二人呼び止められ、「あなたはカナコ教がスワコ教のどちらっ」「と質問される。

質問の意図が分からず、「どちらでもない」と答えると、今度はスワコ教に入れ、いやカナコ教だと、しつこく勧誘してきた。

やがて力尽きて自分側に取り込もうとする二人に、レイムは変身。

三つ巴、一触即発の雰囲気。今にも戦いが始まるうとした、その時だ。

「待てっ」の一言と共に、一人の少女・古地屋サナエが現れた。「許可なき信仰勧誘、および闘争は禁止されているはずですよっ」と、割って入りそう告げるサナエに対して、誰とにとりは「どっちつかずの風祝が……!」そう言って撤退する。

残ったレイムにサナエが声をかけようとした時だ。アキユウがレイムの名を呼ぶと、彼女がそれに反応する。

「貴女が……聞いていましたよ、悪魔!」突然そう言うと言戦闘態勢に入ったサナエ。レイムはどういうことか問おうとするが、サナエは聞く耳持たずに攻撃を開始する。

「なんだってのよ……っ」「それに対して玉串を構えると、レイムは応戦。更に【天覇風神脚】でサナエを蹴り上げる。

遠近兼ね備えた霊夢に、サナエは通常の衣装から、蛇の型・蛙の型にフォームチェンジし戦闘。「面白くなってきたわね」と言っってレイムが手を払う仕事をしたその時、カナコとスワコが現れる。

にらみ合いと、少しのやり取りをした後、両者撤退。残されたレイムたちは、サナエから風神録の異変を説明を受ける。

ここはカナコとスワコ、二人の神様が信仰対立を起こした世界。

この世界では蛇信仰と蛙信仰、二つの宗教で二分されておる、

一触即発の状態になっている。

サナエは現人神として、両者の中立となっている。どちらかに付いた瞬間拮抗は崩れ、崩壊しかねないのだそうだ。

サナエはこの状況を辛いと思っている。かつて信仰少なかった頃は、二人の力は全くなかった。だが、それでも三人で暮らし、その生活は幸せだった。

今は互いの信仰が対立し、いさかいを起こす日々。「自分はみんなに笑ってもらいたい」、そう言っ彼女に、レイムは「それなら、いい方法があるわ」と笑みを浮かへて顔を近づける。

「ただし、あなたの力も借りるわよっ」

準備の為、と言ってレイムは一人市街を歩く。そこで何もない所から、一人の日傘を差した女性が現れた。異空間から出現した相手に、レイムは警戒する。

八雲紫と名乗るその女性は、レイム達をこの世界に連れてきた張本人だと言っ。彼女は幻想郷の霊夢に協力し、世界を救うために動いていると。

「何、感謝でもして欲しいわけ?」と言っレイムに微笑を浮かへ首を振る紫。

そして、「ただ、死んで欲しいだけですわ——世界の破壊者。悪魔さん?」と告げるとレイムを森の中(幻想郷)へ連れ込んだ。

ルーミアの登場。それは紫が呼び出した、オリシナルの幻想郷からのキャラだった。「あなたは、食べてもいい人類?」浮かぶ彼女に、「私を倒せたら、食べてもいい人類よ」と応じて変身する。

ルーミアが襲いかかるので、次回。

【信仰は誰の為?】

戦闘から。

ルーミアの能力によって視界を奪われるが、レイムは【ホーミング・アミュレット】を使い、狙わずに攻撃を行う。

撃退すると、レイムの周囲は元の市街へ。先程いた紫は、影も形もなかった。

「……悪魔、か」

手にした【霊夢】のカードを見つめ、レイムはそう呟く。

【OP】

レイムに呼び出され、指定した場所にやってきたサナエとアキユウは、その光景に唾然とする。

周囲には『風祝信仰』と書かれた職(のぼり)が立てられており、そこには既に大勢の信者が集まっていたからだ。

既に神社のような建造物も出来ており、サナエは慌ててその中へ進む。案の定、奥にはレイムが座っていた。

「どういことですか、これー?」と詰め寄るサナエ。レイムはその表情に満足したように頷くと、「二つが対立するから問題だよ。信仰が三つに分かれれば、お互いを監視することになって問題は解決する筈」

それが出来るのは、現人神と言われているあなただけ。レイムは付け加えると、参拝者から送られた果物をかじり、

「この世界で暮らすつても……悪くない、かもね」

新しく贈り物を持ってきた参拝客に、「じゃんじゃん持ってきなさい」と尊大な態度を取るレイム。その姿に、サナエとアキユウは顔を見合わせたため息をつく。

一方、信仰が減少してきたカナコ・スワコは、サナエが新しい信仰を始めたことを聞き驚愕、激怒する。

自分側に引き込もつとしていたサナエが、まさかそんな手段に打って出るとは思わなかったからだ。

信仰心は自分たちの力。それをこれ以上奪われるわけにはいかない。二人は奇しくも、同時に立ち上がりレイム達の元へ向かう。

どうすればいいか分からず、ふわふわしながら座布団に座るサナエ。「これでいいんでしょっか?」と問いかけるアキユウに、「まあ、いわけないわよね」とレイムは返事をすする。

その言葉の真意を問おうと、アキユウが口を開いたその時だ。信者から二人の神が攻めてきたと報告が入る。

それを聞き、慌てて向かおうとするサナエ。だがレイムはそれを制すると、自分一人で行く、と言いつ。

「私が作ってあげたのは、環境だけ。後はどうしたいか、あなたが決めなさい」とサナエに告げて、レイムは飛び出した。

神社を出、宙に浮くカナコ・スワコと向き合うレイム。

「お前の仕業が……悪魔が!」と言われ笑みを浮かべると、カードを取り出しそれを見つめる。

「そっ……私は破壊者。——あなた達が起こした異変を、そして全てを破壊する……そっという存在よっ」

カードを突き出し、「変身!」と言ってベルトに差し込む。

姿は巫女服から、改造された霊夢の衣装へ。サイセンブッカー

を手にとった二人に攻撃を開始。

だが、神様二人がかりでの圧倒的な攻撃に、レイムは吹き飛ばされ変身が解けてしまつ。

片膝を突くレイムの頭上には、一本の御柱。躲そつにもダメージが大きく、絶体絶命の状況だ。「ここまで……ってわけにも、いかないでしょうが!」叫び立ち上がるうとするも、鉄の輪の追撃について伏せてしまつ。

動かない体。落下してくる御柱。だが、そこ一陣の風が吹き、次の瞬間何もない地面に御柱が突き刺さる。

レイムは、サナエに抱きかかえられていた。

「……来たのね?」

「——ええ。私も、戦いますっ」

ゆっくりとレイムを下ろし、二人の神に向き合うサナエ。

「信仰がなくても、みんな仲良しだったあの頃」。あんな風に、みんなで笑い合える日を取り戻すために! 私は、私が、戦わなきゃいけないですー!

その言葉がカンに障ったのが、カナコとスワコはレイム・サナエを吹き飛ばす。誰からも信仰が無かったあの頃とは違つ。誰かに信じられ、ここまで力も取り戻した。なのに何故、それをお前達は邪魔するのだと。

その問いに、レイムは立ち上がりながら、答える。

「そりゃあ、誰からも信じられた方がいいに決まってる。でもね、この娘が信じる信仰は、そんなもんじゃない! 例え無謀だと言われても、いつかみんなが笑い合える! その日のために戦ってるのよー!」

同じく立ち上がったサナエの方を向くと、レイムはベルトを再び装着。笑みを浮かべ、こう続ける。

「そしてこの娘が、皆の笑顔の為に戦つたら、私はこの娘の笑顔の為に戦つ! 知らないはずがないでしょっか?」この娘の笑顔、悪くないわよっ」

ブッカーからカードを抜き出すと、サナエのカードが解放されている。それを見つめるレイムに、「何者だ、貴様っ?」と問う二人。

「通りのすがりの解決屋よ! 覚えときなさいー!」

そっおじると、レイムは再び変身した。サナエも構えると、二対一の戦闘になる。

ヒルの間を抜けながら、レイムは御柱を回避。更に【封魔針】のスペルを発動すると、カナコへ集中砲火を見舞う。サナエも奇跡を行使し、スワコの攻撃に対抗していた。飛び回っていた

二人は、合流し背中合わせに。レイムはカードを取り出し、サナエのLASのカードを発動した。

回。

「ちゃっつとくすべつたいわよっ」

井上脚本を意識してみました。目指せ井上おじょう。

「えっ」と疑問を口にするサナエの背中を、レイムは両手で突く。すると紋章が現れ、そこから五本の御柱と、スワコの帽子・鉄の輪が。それがサナエの装備【サナエ・トリニティ】になる。

神様二人に対して、御柱と鉄の輪で対抗するサナエ。レイムは更にLASを発動すると、続けて自分のLASも発動。

御柱が砲門。帽子が発射口となり、サナエは奇跡の力を収束し始める。それを止めようとする二人だが、レイムは【夢想封印・蹴】で押し返した。

ヒルに叩きつけられた二人に向けて、サナエは強力な一撃を放った。

人間二人に倒された神様。その事実によって、カナコ・スワコの信仰心は急速に下がってしまう。一気に上がった信仰心で暴走気味だった。そのことに気づいたカナコ・スワコは、サナエに「悪かった」と頭を下げる。

そんな二人に「いいんですよ。それより、今度こそ力を合わせて、信者の皆さんを増やしましょうっ！」と笑顔で返すサナエ。その表情に顔を見合わせると、二人の神様は泣きながらサナエに抱きついた。

慌てる彼女を見届けたレイムは、アキユウに「ここでの役目は終わったわ」と告げて光琳堂に帰って行く。

光琳堂に戻ったレイム達は、なぜか大量に置かれた果物に驚く。何でも風祝信仰の信者の一部が、レイムへと送って送ってくれた物らしい。「……惜しいことをしたかもね」と悔しがるレイムの頭をアキユウは小突く。そして、もう少し緊張感を持って、と小言を言おうとしたところ、スクリーンが落ちる。

終わりの見えない川と、彼岸花。そしてはまかれた六文銭。

「アキユウ。小言はいいわ……多分、次の世界で散々聞かされるからね……」

次の世界は、花映塚だった。

一方、境内を掃きながら、「お礼も言えなかったな」と呟くサナエ。そんな彼女の前に、猫耳と二本のシッポを生やした少女が現れる。

橙と名乗ったその少女は、サナエに向けてこう言った。

「レイムに会いたい？ 風祝のお姉さんー！」

満々の笑みの橙と、首を傾げるサナエのツーショットで、次